資料4－2

総務省　進捗状況

地・総01：スライド1

地・総03：スライド2～7

次世代救急車の研究開発 (消防庁)

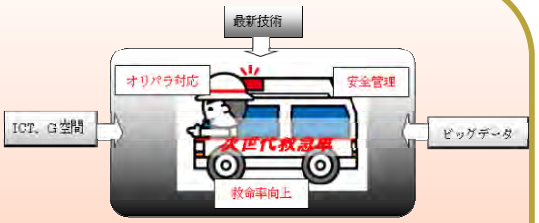
施策の概要

2020年東京オリンピック･パラリンピック等において外国人来訪者に適切に対応するとともに、東日本大震災、広島市土砂災害、火山災害等を踏まえ救命率向上・安全管理を図ることができるよう、最新技術やビッグデータ、G空間×ICT等を利用した「次世代救急車」を研究開発し、世界最先端の救急サービスを目指す。

救急車運用最適化･･･救急車の需要分析、最適ルート分析、傷病者情報分析等により救急運用体制を最適化し、現場到着時間、病院収容時間の短縮を目指す。

乗員の安全防護　･･･救急車の事故による負傷者発生を防ぐため、日本の交通状況に合わせた基準を作成する。

多言語翻訳対応　･･･「外国人来訪者等への救急・防災対応」※1の一環として、救急車で搬送する際に使用する多言語対応アプリの救急用カスタマイズを行う。



※1 「2020年東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会の準備及び運営に関する施策の推進を図るための基本方針」(平成27年11月27日　閣議決定)

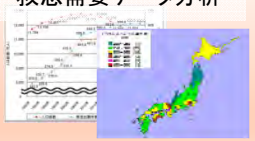
最終的にはこの研究成果を実用化し、
「世界最先端の救急サービス」を目指す

概算要求額　59百万円
政府予算案　21百円

検討項目及びスケジュール

救急車運用最適化

救急需要データ分析



運用最適化(案)作成

○平成28年度は、運用最適化に必要な、基礎分析(救急需要予測、最適ルート分析など)を行い、運用最適化(案)を作成する。
○平成29年度は、平成30年度に予定している運用最適化プログラム開発にむけて、そのプロトタイププログラムの作成を行う。

乗員の安全防護

救急車の事故調査

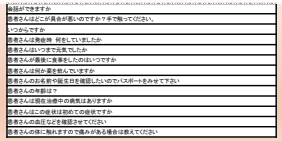
海外基準の調査

○平成28年度は、救急車の事故、ヒヤリハット事例、消防機関のニーズ、海外の基準等調査を行い、乗員の安全防護基準(案)を作成する。
○平成29年度は、救急車の内外装に関する安全防護基準の具体化を行い、性能実験を行うための実験車両の設計を行う。

多言語翻訳対応

多言語翻訳実証検証

救急用短縮ワードの抽出



○平成28年度は、消防機関での多言語翻訳実証実験により、既存の多言語翻訳アプリの課題を明らかにし、これを踏まえた救急用カスタマイズ(救急用多言語ワードの追加等)を行う。
○平成29年度は、実際の救急現場での実証検証を経て、実用化を目指す。